

地域を支える 変える 高知大 6

2024年 創立75周年



福住准教授の研究室に並ぶ100個以上のけん玉。自費で購入しているという

けん玉先生「すーみん」こと福住紀明准教授。玉の大きさが直径18センチ、巨大けん玉でポーズを取る(高知市曙町2丁目の高知大学)



教育学部 福住紀明准教授

けん玉は、子どもに必要な自己肯定感を高める!!
その語るのは教育学部発達心理学研究室の福住紀明准教授(43)。専門とする学校心理学の視点から、けん玉を活用した研究に取り組んでいる。「たかがけん玉、されど」。けん玉は奥が深いんです。隠れた魅力と、教育への影響について語った。



けん玉で学級課題解決!?

トライ&エラー 自己肯定感UP

小学校の学級課題を、けん玉で解決しようという、全国でもはばくを見ない研究を進めています。けん玉のどこにもそんなパワーが、思われるかもしれません。教育という視点から見ると、非常に面白いツールと分かってきたんです。

けん玉は昔から親しまれてきた玩具。難易度がさまざまで多彩な技があり、常に新しい遊び方に挑戦できる特徴があります。

現代の子どもは失敗を恐れる傾向があるとよく言われます。何かを新しくできるようになる経験は、大きく成長させる要素です。その点、けん玉はトライ&エラーの繰り返しで、もつてこい。技に挑戦し、失敗から学ぶ経験はもちろん、集中力やバランス感覚を養うこともできます。

複数の楽しむけん玉遊びには、集団におけるコミュニケーション能力や達成感の共有といったソーシャルスキルの育成に役立つという側面があります。比較的キャッチが容易な「筒けん」は、音楽やダンスを組み合わせた新たな感覚を体験できます。

私は、けん玉先生「すーみん」となり、小学校を訪れて体験授業を行っています。授業を通して、子どもたちにもどのような変化があったか、学級にどのような影響があったかをデータとしてまとめ、子どもへの成長や先生のスキル向上、学級経営にも役立ててもらおうと目標にしています。

土佐市の北原小学校には昨年度から仲間つくりの授業に訪れています。大切なのは、できないにかかわらず、受け止めること。それぞれの子に合った目標を決め、達成できなくても「ここまでできたね」と認める。頑張った過程を「集中してたよ」「あきらめずにやれたよ」とほめる。友達を応援したり一緒に技を決めてハイタッチしたりする姿も見られました。

そして、どうやって目標をクリアできるかを考える。勉強と同じで、点数を取るだけではなく振り返りが大事なんです。成功体験を重ねること、ウェルビーイング(幸福度)の向上につながります。子どもが不登校から立ち直った例もありました。

できなかったことができるようになる喜び、友達と助け合って頑張っていくという関係性。けん玉を通して子どもの可能性を引き出したい。何か新しいことに挑戦するきっかけをつくりたいと思っています。



北原小学校が協力して技を考える(土佐市北地)



「筒けん」でタワーをつくる土居小児童(安芸市土居)

実は高知と縁深い

けん玉と言えは南国出身の演歌歌手、三山ひろしさんを通算される方が多いのではないのでしょうか。実は、高知県とけん玉の縁は深く、2021年にはグローバルけん玉ネットワーク(GLOKEN)が主催するけん玉ワールドカップの都道府県部門で、高知県が1位になりました。教員が多く参加する「ODAMA」というチームもあります。くろしおくんのけん玉も販売されていますね。

けん玉の起源にはいろいろ説があります。16世紀フランスで、王様のアンリ3世が子どもの間ではやっていた「ピルボケ」を遊び、庶民から貴族の遊びとしても広まったとの記録があります。

日本の学校でけん玉が紹介されたのは、1876(明治9)年7月。文部省現在の文部科学省が、イギリスの教科書を翻訳し「童女舎」を発行しました。1910(大正8)年の5月14日に広島県廿日市市で今のけん玉の形が考案され、その日は「けん玉の日」に制定されています。

図書館の憩いの場

朝倉キャンパスの図書館1階には、ひきたてのコーヒーが楽しめる「あうるカフェ」があり、よりリフレッシュ場所となっています。

以前は大学の歴史などを展示するスペースでしたが、学生らの交流の場にしようとネット環境と座席を整備。2020年に販売機が設置されました。販売商品は100~200円の8種類。カフェラテやカフェモカ、ココアなどがあります。ホット、アイスで豆の種類が異なるそう、手軽にひきたてコーヒーが楽しめます。

周辺スペースは30席ほどを備え、お弁当など食事の持ち込みも可。私は授業の空きコマや待ち合わせなどで利用します。設置モニターに森や水辺の風景が映し出され、ヒーリング曲でリラックスできますよ。

図書館は、正式名称が「学術情報基盤図書館」と言うだけあって蔵書数約50万冊を誇ります。一般の方も利用可能です。調べもので訪れた際は、ぜひカフェにも立ち寄ってください。

(教育学部3年、森本倫)



「あうるカフェ」をPRする筆者

初心者からマニアまで



昨年のクリスマス行事で衣装をする吹奏楽団員(高知大朝倉キャンパス)

吹奏楽団員がオリジナルで脚本を書いた劇「迷子のマイコ」の上演にも挑戦。主人公がタイムスリップした先が江戸時代なら必殺仕事人のテーマ曲、恐竜がいた時代ならゴジラのテーマ曲を披露するなど演出を工夫し、好評でした。

今月30日午後7時半からは、朝倉キャンパスの共通教育棟2号館で、演奏会を開きます。ぜひお越しください。入場無料です。(理工学部4年=井田桃華)

雑 音活動中

吹奏楽団

トランペットにチューバ、フルート、ティンパニーなどで合奏する吹奏楽団です。私はクラリネット担当で、去年は団の代表をしました。県内学生や社会人を含め、初心者から吹奏楽マニアまで約60人で活動しています。

変拍子や転調の多い大人な曲を演奏できるのが、大学吹奏楽団の醍醐味。コロナで制限も多かったですが昨年は合宿を再開し、楽しく練習しています。

昨年11月、高知市の県民文化ホールで開いた定期演奏会では、喜歌劇「伯爵夫人マリツア」の吹奏楽版などを演奏しました。

◆第4土曜日掲載

高知大学 × 高知新聞 共同編集